

学年										
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
小笠原村立小笠原中学校 音楽科 2年 年間指導計画										
月	単元名	パートの役割を感じ取って合唱しよう(4)				系単元性の	1学年では、新型コロナウイルス感染症対策として歌唱活動に制限があったが、「浜辺の歌」と小笠原中学校校歌で斉唱に取り組んだ後、学年合唱として3部合唱を音楽発表会に向けて取り組んだ。3学期には、より良い合唱とはどのようなものか考えるため、映像を使った審査練習を行った。			
4 5 6 7	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 思いを込めて明るい声で歌おう</p> <p>①本校で平和学習の一環として行なってきた「故郷の廃家」について、歌唱の歴史について知り、のびのびとした発声で歌う。(小笠原学習)</p> <p>2 パートの役割を感じ取って合唱しよう</p> <p>①前年度の学年合唱を振り返り、新学年での音楽発表会に向けた合唱曲選曲を行う。</p> <p>②曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫する。</p> <p>2 パートの役割を感じ取って歌おう</p> <p>①3つのパートに分かれて、リーダーを中心に練習をまとめる。</p> <p>②パート間のバランスを考えて合唱する。</p> <p>(○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)これまでの合唱活動を振り返り課題を共有して取り組む。</p> <p>△(対話的)パート練習の進め方について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)強弱などの曲想や歌詞の内容から、どのような表現が相応しいか考え、演奏に生かす。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①パート練習の進め方で、グループによって差が出やすい。</p> <p>②練習の意欲付けに工夫が必要である。</p>			
							<p>工夫・手立て</p> <p>①パート練習の方法について、リーダーが話し合い、進め方を生徒があらかじめ把握できるようにする。練習で着目すべき点についてキーワードを提示し、各授業で1つ1つのキーワードを達成できているかリーダーがチェックする。</p> <p>②口の開け方や息の使い方を集団で揃えることで、演奏のまとまりを作る。発達段階に応じて声量は上がってくることが踏まえ、声質や歌い方に着目して取り組ませる。</p>			
	評価規準									
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>				思考・表現判断		<p>音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>
月	単元名	全校吹奏楽:基本奏法と楽曲練習(4)				系単元性の	第1学年では、吹奏楽器の基本奏法について学び、全校発表で2曲を演奏した。1学年3学期からは、経験したことを後輩に伝える方法についてパートで話し合い、自己の基礎技能を再確認しながら、新1年生への楽器紹介と体験に向けて準備を行った。			
4 5 6 7	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 後輩指導に向けた基礎事項の確認</p> <p>①1年生とのパート練習で、楽器の持ち方、各部の名称、組み立て方、片付け方、水抜きの方法、マウスピースやリードの使い方を指導する。</p> <p>②音の出し方、アンブシュア、演奏姿勢、運指、ロングトーンの方法について、実演を交えて伝える。</p> <p>2 楽譜の読み方を知る</p> <p>①調号の読み方練習(ドリル学習)</p> <p>3 楽曲練習</p> <p>①発表会に向けた楽曲の運指とリズム練習</p> <p>(○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>△(対話的)異学年交流を通して、生徒の対話を促すことで楽器演奏に対する意欲を高め、理解を深める。</p> <p>□(深い学び)読譜練習を同時に行い、音楽の基礎知識を演奏に生かすことで、知識と技能が一体化した学びを促す。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①音符の読み方が分からないことにより練習が進まなくなることがある。</p> <p>②パート練習の進め方が分からず後輩とうまく関わることができない生徒がいる。</p> <p>③後輩と関わったり教えたりすることに不安を抱いたり躊躇する生徒がいる。</p>			
							<p>工夫・手立て</p> <p>①楽器別に練習法を提示し、練習したことをそのまま後輩指導に生かせるようにして定着を図る。</p> <p>②初心者が最初を知るべき事項をパート内で話し合い、教えるべき内容を明確にしておく。後輩を教える立場としての目標はシンプルで分かりやすいものにして、2年生が達成感を得られるよう配慮する。</p> <p>③自己の理解度を確認し、理解できていなかった事項は動画等を活用した調べ学習を適宜行い、理解を深めてから後輩指導を行う。</p>			
	評価規準									
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>				思考・表現判断		<p>リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 2年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	「交響曲第5番八短調」(2)				系統単元性の	1学年では、「春-第1楽章-」でそれぞれの場面に付けられたソネットから音楽の情景を思い浮かべ、音色の変化を感じ取る活動を行った。吹奏楽の活動では、様々な楽器の音域や音色の違いを感じ取り、音の重なり方の変化を演奏を通して学んだ。		
6	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>1 音楽の「動機」について知る</p> <p>①身近な曲の中にある動機を紹介し、動機とは何か理解する。</p> <p>②第1楽章の動機を、リズムと音程に着目して理解し、楽曲冒頭部のスコアから動機を抜き出してワークシートに記入する。</p> <p>2 2つの主題とソナタ形式について知る</p> <p>①楽曲の構造より主題の印象をまとめる。</p> <p>②ソナタ形式の名称を学ぶ。</p> <p>3 ベートーヴェンの生涯について知る</p> <p>①ウィーンに移り住み、遺書を書いたハイリゲンシュタットの家を紹介し、ベートーヴェンの言葉や生き方から作品への影響を考える。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)作曲者の生き方に関心をもたせることから学びに入る。</p> <p>△(対話的)主題の印象について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)オーケストラ楽器の組み合わせ方によって音色の印象が変化することから、吹奏楽の演奏表現に生かす。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①音楽用語である「動機」や「主題」がどのようなものか、イメージをもちにくい。</p> <p>②比較的長い楽曲であるため、課題のポイントを理解して鑑賞していないと記述が難しい。</p> <p>③生徒にとって遠い存在(外国で昔生きていた芸術家)の曲であり、興味関心を持続させる工夫が必要である。</p>		
6	評価規準						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	知識・技能		思考・表現・判断		主体的に学習に取り組む態度		<p>①音楽用語をできるだけ分かりやすく簡潔に説明し、生徒にとって馴染みのある曲を使って音で理解させる。古い時代の曲であっても、音楽の作り方には現代に通じる面があることについて触れる。</p> <p>②鑑賞しながら音のイメージを明確にもつため、繰り返されるフレーズをあらかじめ記憶する課題を設けてから鑑賞課題に移る。</p> <p>③作曲者の生き方にまつわるエピソードを紹介することで、関心をもてるようにする。</p>		
月	単元名	全校吹奏楽:基本奏法と楽曲練習(7)				系統単元性の	1学期の学習では、昨年度の学習を踏まえて後輩とも関わり、パートのまとまりができてきた。今学期は発表会に向けて楽曲に取り組むが、既習事項を生かしながら新しい曲の練習を進めるとともに、自信をもって1年生に教えられるようにしていきながらパート練習を強化していく。		
9・10・11・12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>1 パート別練習</p> <p>①発表会に向けた楽曲の運指とリズム練習。</p> <p>2 グループ練習</p> <p>①楽曲の中で同じ役割を担うパート同士で集まって練習する。</p> <p>3 全体合奏(曲想を感じ取って器楽表現を工夫する)</p> <p>①全校で合奏し、本番に向けて準備する。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)楽曲練習を自主的に進め、分からない箇所を見つけてグループ練習で解決する。</p> <p>△(対話的)グループ練習や合奏などを生徒主体の活動にすることで対話を一層促進し、理解を深める。</p> <p>□(深い学び)より良い演奏にするためにリーダーがどのような役割を担うべきか考え、練習方法に生かす。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①リズムに不安を抱く生徒が多く、自分で練習をうまく進められない。</p> <p>②演奏に対する不安から、活動に集中できなくなる生徒がいる。</p>		
9・10・11・12	評価規準						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	知識・技能		思考・表現・判断		主体的に学習に取り組む態度		<p>①合奏の前にリズム練習を取り入れ、手拍子等で正しいリズムを習得させる。</p> <p>②運指の確認及び息の使い方について引き続き指導を行い、できる箇所を増やすことで活動への集中力を養う。</p>		
知識・技能		思考・表現・判断		主体的に学習に取り組む態度		<p>曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>			
観察		観察		観察		<p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>			

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 2年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	「夏の思い出」(3)				系単元性の	昨年度取り組んだ「浜辺の歌」に続き、日本語による斉唱は2度目となる。発表に向けた合唱活動にもつなげる内容として、歌詞と旋律の関わりや発声や表現方法について学んでいく。		
9	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>1 歌詞の内容に注目して表現を工夫する</p> <p>①作詞者の思いを理解し、情感を感じ取りながら表現を工夫して歌う。</p> <p>②尾瀬ヶ原や歌詞に出てくる情景について知る。</p> <p>2 音楽の構造に注目して歌う</p> <p>①日本語の歌詞と旋律の動きとの関わりを理解して歌う。</p> <p>②強弱や速度に関する記号の意味を理解して、旋律ごとに変化する表現方法を工夫して歌う。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)曲の背景や作詞者の思いを理解して歌う。</p> <p>△(対話的)音の跳躍など、歌唱する際に気を付けるべきポイントを話し合う。</p> <p>□(深い学び)フェルマータの扱いについて考え、テンポを変化させるなど表現を工夫する。</p>						<p>①音程跳躍が大きい部分では、発声や歌い方に注意する必要がある。</p> <p>②強弱記号の違いを演奏で表現することが難しい。</p>		
							<p>①発声練習を行うことで声質を揃える。発音によっても声の出方が変わるため、喉の使い方や歌う姿勢についても指導する。</p> <p>②強弱記号で特に変化の大きい部分を取り出して練習してから全体の強弱を付ける。</p>		
評価規準									
知識・技能	<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>				思考・表現判断	<p>音色、旋律、リズム、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しむながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>
月	単元名	「フーガ短調」(1)				系単元性の	昨年度鑑賞した「春-第1楽章-」で古楽器チェンバロについて学んだ。パイプオルガンについては初めて扱うが、夏季に小笠原村と南アルプス市で行っている交流活動で、パイプオルガンを実際に見て鑑賞する生徒もいる。「主題」については1学期鑑賞曲「交響曲第5番ハ短調」で既習した。		
11	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫		
	<p>1 パイプオルガンについて知る</p> <p>①パイプオルガンの鍵盤について学ぶ。(手足鍵盤)</p> <p>②パイプオルガンの音の出し方について知る。</p> <p>2 フーガの形式について学ぶ</p> <p>①4つのパート(ソプラノ、アルト、テノール、バス)の音域を知る。</p> <p>②主題の変化と重なり方を学ぶ。</p> <p>3 楽曲の時代背景について知る</p> <p>①バロック時代の音楽とバッハについて学ぶ。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)楽器の音色や構造に関心をもち、学べることから学びに入る。</p> <p>△(対話的)曲の印象について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)2学期に鑑賞した交響曲の仕組みとフーガで共通する部分を見つけ、比較しながら鑑賞する。</p>						<p>①主題がそれぞれのパートで変形として出てくる際に、同じ主題を元にしてできている旋律だと気づきにくい。</p> <p>②楽曲のテンポが速く馴染みの薄い楽器のため、旋律の重なり合いを正確に知覚しにくい。</p>		
							<p>①キーボードであらかじめ各パートの主題を確認し、短調から長調などに変化した形についても理解してから全体の鑑賞に入る。</p> <p>②鑑賞中にまず主題の冒頭部分などに絞って知覚できているか全体で確認してから複数パートの重なり合いを意識させる。</p>		
評価規準									
知識・技能	<p>曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>・ワークシート ・定期考査</p>				思考・表現判断	<p>音色、リズム、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・ワークシート ・定期考査</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しむながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ワークシート ・定期考査 ・観察</p>

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 2年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
月	単元名	曲想を活かして合唱しよう(4)				系統単元の	一昨年度に行った審査練習をもとに、良い合唱作りに必要な練習方法を考えて音楽発表会に備える。次年度に向けて、曲想表現(強弱表現を中心に)の作り方についても学習する。			
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 フレーズや旋律の動き、強弱を生かした表現を考える。</p> <p>①歌詞の内容を活かして音楽表現を工夫する。</p> <p>②曲想表現で、強弱の盛り上がりをもとに考える。</p> <p>2 パートごとのまとまりを作って合唱する</p> <p>①パートの役割を生かした表現方法を話し合う。</p> <p>②全体の響きの中で、パートごとの強弱表現を考えて歌う。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)パート練習に積極的に関わり、より良い演奏に近づけるにはどのような練習が必要か考える。</p> <p>△(対話的)パート練習の進め方について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)全体の響きを客観的に聴き、より良い演奏にするために必要な課題を見出して表現に生かす。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①弱奏部分を作る際に違いを感じ取ることが難しく、練習でつまづくことが多い。</p> <p>②パート別の曲想を作る際に、目立たせるパートを作るために声量を抑え過ぎたり歌わなくなったりすることがある。</p>			
							<p>工夫・手立て</p> <p>①強奏部分から練習を始め、弱奏部分は発音について意識することで強弱の差を作らせる。</p> <p>②パートバランスで目立たせるパートのまとまりを強くし、控えめに表現するパートについてはそのパートの声を聴きながら歌うように指導する。</p>			
評価規準										
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>			思考・表現判断		<p>音色、旋律、構成を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>合唱表現の多様さに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>
月	単元名	全校吹奏楽:基礎合奏、楽曲練習(4)				系統単元の	2学期の発表の成果を振り返るとともに、最上級生となる時期に向けて楽器の基礎技能をさらに高める。音階練習や楽曲練習、パート練習の進め方について考え、各楽器の練習方法を確立することで、全校吹奏楽をまとめる意識を育てる。			
1 ・ 2 ・ 3	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 音階練習</p> <p>①各楽器の連指でB-durの音階練習をする。</p> <p>2 基礎合奏</p> <p>①バランス、スケール、ハーモニーの3種類を各パートで練習する。</p> <p>②音程の合わせ方(チューナー)を学ぶ。</p> <p>③全体でテンポを合わせて基礎合奏をする。</p> <p>3 楽曲練習</p> <p>①2学期の発表で行った楽曲を改めて合奏する。</p> <p>②基礎合奏の方法を活かして、テンポや音程を合わせながら合奏する。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)吹奏楽の基本音階であるB-durの連指を理解して覚えながら演奏する。</p> <p>△(対話的)正しい連指やハーモニーの合わせ方について対話しながら理解を深める。</p> <p>□(深い学び)音程やテンポを合わせるために、チューナーやメトロノーム、合奏用キーボードを用いてパートなどのグループで合わせる。</p>						<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①各楽器のB-dur音階で調号が異なるため、#やbを見落としてしまい、連指を間違えて覚えてしまうことがある。</p> <p>②音程をどのようにして変えてチューナーに合わせていくか、慣れるまで時間が掛かる。</p>			
							<p>工夫・手立て</p> <p>①個人実技テストを行うなどして、正しい読譜と連指ができていないか教師が直接確認し、誤りがある場合は早い段階で修正する。</p> <p>②口の筋肉の使い方や息のスピード、姿勢などで音程が変わることを指導する。また、ロングトーンで1音を揺れないで吹けるように練習する時間を設ける。</p>			
評価規準										
知識・技能		<p>創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>			思考・表現判断		<p>リズム、旋律、速度を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>全校吹奏楽の活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査</p>

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 2年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	卒業式歌「あおぞらに」(5)				系単元性の	2曲の卒業式歌は、新型コロナウイルス感染症予防として近年歌唱を見送った経緯がある。「蛍の光」は馴染みがあるが、「あおぞらに」は合唱曲でもあるため、繰り返しパート練習を行うなどして、旋律の動きを理解して合唱できるようにする。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
1 ・ 2 ・ 3	<p>「あおぞらに」(斉唱)(小笠原学習)</p> <p>1 歌詞の内容や曲想に関心をもつ</p> <p>① 作曲家と小笠原中学校について紹介する。</p> <p>② 小笠原中学校生徒の卒業式で歌い継がれている曲であることを知り、歌詞の内容を理解する。</p> <p>2 音色、リズム、音程、構成に注意して歌唱する</p> <p>① 4部合唱を2部合唱等に分けて正しい音程とリズムで歌う。</p> <p>3 曲にふさわしい歌唱表現を考える</p> <p>① 強弱表現を入れて歌唱する。</p> <p>「蛍の光」(斉唱)</p> <p>1 旋律とリズムを正しく知覚し、歌唱表現を工夫する</p> <p>① 歌詞と旋律の関係を感じ取り、強弱や響きの変化を歌唱で表現する。</p> <p>○(主体的△対話的)で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)曲の背景や作詞・作曲者の思いを理解して歌う。</p> <p>△(対話的)音の跳躍など、歌唱する際に気を付けるべきポイントをパート等で話し合う。</p> <p>□(深い学び)歌詞の内容と曲想の変化について、作曲者がなぜこのように作曲したのかについて考える。</p>						つまずきやすいポイント	<p>①「蛍の光」の歌詞について、言葉の意味や抑揚を理解していないと歌唱でつまずきやすい。</p> <p>②「あおぞらに」のリズムが旋律によって異なり、似ている箇所間違えやすい。</p>	
							工夫・手立て	<p>①言葉の意味や歌詞の大意を理解した上で、旋律との関わりを意識しながら歌唱する。</p> <p>②歌詞によって似ているリズムを取り出して焦点化させる。</p>	
評価規準									
知識・技能	<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>				思考・表現・判断	<p>音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>	
月	単元名	歌舞伎「勸進帳」(1)				系単元性の	1学年時に日本の民謡を学び、郷土小笠原の音楽文化についても学んだ。日本の伝統芸能についての学習は本単元が初めてとなる。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
1	<p>1 歌舞伎について知る</p> <p>① 歌舞伎座の構造や歌舞伎の音楽(長唄、使われている楽器)について知る。</p> <p>② 歌舞伎の歴史を理解する。</p> <p>2 「勸進帳」のあらすじを学ぶ</p> <p>① 時代背景や登場人物、物語についてEテレの「おはなしクラシック」を視聴しながら理解する。</p> <p>② ワークシートに学んだことをまとめ、歌舞伎の舞台を視聴して感じたことを記述する。</p> <p>○(主体的△対話的)で□深い学びからの授業改善の工夫)</p> <p>○(主体的)生徒に馴染みのある芸能人と歌舞伎役者との関わりや、大神山神社で小笠原でも歌舞伎が上演されていたことに触れ、身近なものとの繋がりから伝統芸能の学びに入る。</p> <p>△(対話的)現代は使われていない歌詞の意味や物語の内容について、グループでワークシートの記述を共有する。</p> <p>□(深い学び)</p>						つまずきやすいポイント	<p>① 歌詞の内容をそのまま理解するには準備が必要のため、鑑賞の際にどんな場面が分からなくなることがある。</p> <p>② 歴史上の人物について背景を理解していないと歌舞伎の演技に集中して鑑賞できない。</p>	
							工夫・手立て	<p>① 歌詞の意味だけではなく、演劇の流れを捉えられるようにあらかじめ理解できるようにする。衣装や演者の動きなど、言葉以外の特徴からも理解できるようにする。</p> <p>② 歴史的な背景については、演技に関係する事柄の説明に留めるとともに、社会科と連携して横断的な学習を含める。</p>	
評価規準									
知識・技能	<p>曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>歌舞伎で使われる楽器の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>				思考・表現・判断	<p>音色や長唄の旋律、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>旋律と言葉との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p> <p>・観察</p>	